

メリー・ウィドウについて

【作曲】

フランツ・レハール（1905年）

【初演】

1905年12月30日 ウィーン、アン・デア・ウィーン劇場

【あらすじ】

【時と場所】 1905年当時、フランス・パリ

【登場人物】

ダニコ（T、Br）：公使館の書記官

ハンナ（S）：老富豪の未亡人（ウィドウ）

ツェータ男爵（Br）：パリ駐在のポンテヴェドロ公使

ヴァランシエンヌ（S）：ツェータ男爵の妻

カミーユ（T）：パリの色男

【第1幕】

時は1905年（当時の現代）、舞台はパリ。パリにあるポンテヴェドロ（仮想の小国）公使館では、公使のツェータ男爵が悩みを抱えていました。それは、老富豪と結婚後わずか8日で未亡人となったハンナが、パリに居住を移したことです。もしハンナがパリの男と結婚したら、莫大な遺産が母国ポンテヴェドロから失われることとなり、国の存亡に関わるのです。

そこでツェータ男爵は、公使館の書記官ダニコを彼女と結婚させて、遺産が他国に流出するのを食い止めようとしています。実はダニコは、ハンナと過去に愛し合っていた仲でしたが、身分の違いから彼の親族が反対したため、結婚できなかったという経緯がありました。彼は、大金持ちとなったハンナに、いまさら結婚したいと言い出せません。ハンナとしても意地があるわけで、素直になることはできません。

【第2幕】

翌日、ハンナ邸で開かれた夜会で、ツェータ男爵の妻ヴァランシエンヌが、パリの色男カミーユに口説かれていました。ヴァランシエンヌは自らの扇子に「私は貞淑な人妻です」と書いて誘いを断ります。けれど、ヴァランシエンヌはとうとうカミーユの誘いを振り切れず、庭の小屋で二人きりになります。それに気付いたのが夫のツェータ男爵。怒って現場を押さえようとする、小屋から出てきたのはカミーユとハンナでした。ヴァランシエンヌを救うためにハンナがうまく入れ替わったのです。そして成り行きでハンナは、カミーユとの婚約を発表します。それを聞いて驚いたのはダニコ。彼は心の中の動揺が隠せま

せん。彼の動揺する姿から、ハンナは自分への愛を確かめることができました。

【第3幕】

祖国存亡の名目もあり、ダニロは、ハンナとカミーユの結婚を阻止しようと、ハンナを説得します。カミーユとの結婚は無しとなり、ダニロとハンナは和解しましたが、それでもダニロは結婚を申し込もうとしません。

このときハンナは、亡夫の遺言に「再婚するなら、彼女は全財産を失う」とあることを明らかにします。それを聞いて喜んだダニロは、即座に求婚しました。ハンナは喜んでこの申し出を受けて、遺言の続きを明らかにします。そこには「彼女の失った全財産は、再婚した相手に与える」とあったのでした。

ところで、ハンナ邸の庭の小屋にヴァランシエンヌの扇子が落ちていたことから、カミーユとの一件が、ツェータ男爵の知るところとなります。ツェータ男爵がヴァランシエンヌに離婚を告げると、彼女は扇子を開くように言います。そこにはもちろん「私は貞淑な人妻です」と書かれており、ツェータ男爵は妻に許しを求めたのでした。

レハール (1870～1948 ハンガリー生まれのドイツ人)

1905年「メリー・ウイドウ」初演は、Jシュトラウスの「こうもり」の時代（黄金の時代）以来の大ヒットで、『白銀の時代』と呼ばれる。

その後の第一次世界大戦と世界恐慌・映画の普及がオペレッタを終焉に導く。やがてオペレッタの流れは第二次世界大戦を経て、「サウンドオブミュージック」「ウェストサイドストーリー」そして「キャッツ」や「ライオンキング」「アナ雪」などのミュージカルへ綱がっていく。

「ヴィリアの歌」

昔、ヴィリアという森の精がいました。

あるとき、若い狩人が岩山で彼女を見つけました。

その狩人はとても不思議な思いにかられ、ヴィリアという森の精をじっとみつめました。

すると狩人は激しい身震いに襲われ、憧れいっぱいにとっとため息をつきました。

ヴィリアよ 森の精ヴィリア

僕を捕まえて、君の恋人にしておくれ、

ヴィリアよ、ヴィリア

君は僕にどんな魔法をかけたのか？

恋に悩む若者は不安げに訴えました。

ヴィリアよ 森の精ヴィリア

僕を捕まえて、君の恋人にしておくれ

ヴィリアよ、ヴィリア

君は僕にどんな魔法をかけたのか？

恋に悩む若者は不安げに訴えました。

森の精は若者に手をさしのべ

岩屋の中に引き入れました

そして若者が気を失いそうになるほど次から次へとキスの雨を降らせました。

満足するまでキスをするとうちに消えていき、若者は最後のもう一度お別れの挨拶をしました。

ヴィリアよ、ヴィリア

君は僕にどんな魔法をかけたのか？

恋に悩む若者は不安げに訴えました。

ヴィリアよ 森の精ヴィリア
僕を捕まえて、君の恋人にしておくれ

ヴィリアよ、ヴィリア
君は僕にどんな魔法をかけたのか？
恋に悩む若者は不安げに訴えました。

「終曲の歌」
そう、女たちの研究は難しい
ああ、女よ、女たちよ！
男性を疲労困憊させる！
女の心も体も決してしることはないのさ・・・
女、女、女、女！
優しくて、金髪で誠実な青い瞳でも
黒髪でも赤毛でも男はみんな虜（とりこ）になってしまう！